

東日本大震災・原子力災害 福島大学の被災状況

平成23年3月11日、国内観測史上最大規模のM9.0、福島市震度6弱（当初は5強で発表）の大地震が発生。大きな混乱が続く中、福島にある唯一の国立大学としての使命を果たすべく、復興・復旧のために避難所の開設、除染対策、そしてどんな時でも歩みを止めるべきではないと教育・研究活動を行いました。

福島大学の被災状況と対応

1 地震発生時の状況と危機対策本部の設置

- 学生・教職員の安全確保のため屋外退避を指示
- 危機対策本部の設置
- 事務局を渉外対応班、メディア対応班、職員安否対応班、医療、学生対応班、学生伝達班、研究被害調査班、避難住民対応班、物品被害・物資対策対応班、施設・設備被害調査復旧班に編成し、緊急時対応にあたった

2 学生の安否確認と被災状況

① 学生の安否確認

学生・職員安否確認班を各学類に設置
→3月23日、4500名を超える学生全員の無事を確認

② 学生の被災状況（家族の安否、自宅等の被災）の確認

主たる家計支持者の
・自宅全半壊 141名 ・死亡 2名 ・離職 33名
・警戒区域 35名 ・避難区域29名

3 建物・設備の被害状況

① 建物被害

建物被害額 約7000万円
幸いにして、福島市にある大学キャンパス及び附属学校園では建物倒壊はなかったが、応急危険度調査実施による要注意建物は15棟に及んだ。

② 図書館被害

書架から落下した図書の整理は、大学が開設した避難所の方々と教職員の協力により大学再開までに利用可能な状態に復旧。

③ 設備被害

設備被害額 約2600万円
研究設備・物品などが振動・落下により破損、変形、故障などした。

④ ライフラインの状況

震災直後、電気・ガスは使用可能。上水道が断水により使用不可能であったため、給水場等からの運搬によって対応。
3月20日頃から一部建物を除きほぼ復旧。中水設備は一部を除いて使用可能であった。

4 避難所の開設

3月15日 福島県災害対策本部に避難所開設を申し出る

3月17日 大学、附属小学校、附属中学校の3カ所で避難所開設・避難者受け入れ開始

附属小学校・中学校避難所

→26日まで運営、延べ333人を受け入れた

大学避難所

→4月30日まで運営、延べ2828人を受け入れた



〈震災時の備蓄品〉

- 大学避難所に並ぶ手作りの段ボールハウス
- ・乾パン ……約1000缶 ・防災用アルミブランケット ……300個
 - ・飲料水(2ℓ) ……約1000本 ・毛布 ……130枚
 - ・洗浄用水(2ℓ) ……約500本 ・毛布用保存バック(2枚) ……9セット

- 福島大学生協から菓子パン、日用品、おにぎりの炊き出しなどの無償提供に助けられる
- 国立大学協会を通じ約30の大学から支援物資が届けられた

5 学生支援と教育への取り組み

- 学生への就職活動に関する交通費の支援(5月～)
学類4年生及び大学院修士課程2年生を対象に、採用試験や説明会など就職活動のため交通機関を利用する場合に、1人あたり最大12000円までを支援
- 平成23年度の入学金・授業料の減免
平成24年度以降も免除を実施
- 東日本大震災に伴うボランティア活動による単位認定の決定
- 平成24年度入学試験の検定料を免除



学生ボランティアによる足湯活動

附属学校園の被害状況と対応

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">附属幼稚園</p>	<p>1 被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平屋建てのため、壁に数カ所ひびが入った程度で大きな被害はなかった ○ ガラス窓は飛散防止加工をしていたため被害はなかった ○ 降園後であったため、園での園児の被害はなかった <p>2 震災・原発事故後 1 年間の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直ちにメール・電話・家庭訪問などで園児の安否を確認 ○ 幼稚園近隣の損傷のひどかった家庭の避難一時受け入れ ○ 3月末には原子力災害の影響により県外避難園児が 50% まで達したため、新学期を 5月に延期 ○ 屋外での活動が制限されたため保育内容を工夫した <p>3 除染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5月末 表土除去実施→線量が 4月始めより 80% 以上下がった ○ 6月 保護者による水洗いを中心とした園舎除染 ○ 10月 専門業者による遊具等の除染、砂場の砂をホワイトサンドに入れ替え ○ JAEA の指導のもとプールの除染、学校薬剤師の指導のもと水の管理を行った 	 <p>幼稚園避難所の様子</p>  <p>保護者による園舎除染作業</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">附属小学校</p>	<p>1 被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 建物の被害 <ul style="list-style-type: none"> あおい広場天井崩落、校舎壁に多数の亀裂、屋外非常階段傾斜、校舎内エクспанションジョイントカバー落下、昇降口柱化粧タイル崩落、構地内電柱傾斜、暖房用蒸気配管欠損、インターロッキングブロック舗装箇所波打、平板ブロック舗装箇所波打、構地外周擁壁亀裂及び傾斜 ○ 人的な被害はなかった <p>2 震災・原発事故後 1 年間の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3月17日避難所を体育館に開設→ 3月21日附属中学校避難所に統合する形で開設を終了 ○ 余震や放射能の影響により、屋外での学習活動が制限されたため、教育課程を変更 ○ 地震や放射能に対する不安感を抱く児童を早期に見取り支援する、保護者からの相談を受け付けるなどの体制を「ほっとルーム」を中心に強化 <p>3 除染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 7月 校庭や緑地等の表土入れ替え処理、校舎壁面洗浄、インターロッキングブロックやコンクリート部分の洗浄、駐車場及び屋外排水枦などの洗浄、樹木の洗浄・伐採 ○ 8月 屋上や校舎周りの洗浄 ○ 9月 プールの清掃・除染、倉庫や飼育小屋の屋根・雨樋などの清掃・除染 ※排水枦などは時間の経過とともに放射線量が上昇してくるため、継続して測定・除染を行った 	 <p>小学校グラウンドの除染作業</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">附属中学校</p>	<p>1 被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 内・外壁の亀裂程度で大きな被害はなかった ○ 人的な被害はなかったが、修学旅行中だった 2 年生は 3 泊の延泊をすることとなった <p>2 震災・原発事故後 1 年間の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3月 17日 避難所の開設 → 附属小・中学校教職員が 3 交代 24 時間体制で支援活動にあたった (3月 26日開設を終了) ○ 全生徒対象に個人放射線量計 (ガラスパッチ) を配布し、9月から 3 ヶ月間の個人被曝量を測定・通知の実施 ○ 放射線の影響により屋外活動の制限 <p>3 除染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5月 7日 校庭、中庭等植栽場所を含め校地内すべての表土除去・入れ替えや側溝等の泥を除去し汚染土を敷地内に埋設 ○ ホットスポット (排水溝、屋根、雨樋等) の除染 ○ 校地内の樹木の剪定 ○ プール水の除染による排水・洗浄・入れ替え 	 <p>食料品等のお土産を手に無事帰校</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">附属特別支援学校</p>	<p>1 被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館天井材の落下、中学部渡り廊下のモルタル剥離、ボイラー煙突土台部分の沈下、都市ガス配管の亀裂 ○ 人的な被害はなかった <p>2 震災・原発事故後 1 年間の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4月 11日 学校再開 ○ 構地内の放射線量の正確な把握と各種放射能対応について情報収集し、安全を確認しながら可能な限りこれまで通りの教育活動を行った ○ 放射線医療関係派遣者の宿泊施設として、日常生活訓練等の施設を 3月 21日～ 31日まで提供 (利用延人数 41名) ○ 校外活動を実施する場合は、活動場所の放射線量を測定し保護者へ数値を通知し、安全確保がなされていることを周知 <p>3 除染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校庭の表土除去、敷地内の花壇等撤去や樹木剪定、通路のコンクリート、アスファルト面の除染 ○ 放射線量測定器を常備し、定期的な校舎内外の測定を継続 	 <p>中学部渡り廊下のモルタル剥離</p>

東日本大震災・原子力災害後の福島大学活動記録

(平成23年～令和3年)

福島大学の震災復興に関連する活動記録をダイジェストでお伝えいたします。

平成23年

3月

- 東日本大震災発生(3/11 14時46分)
- 福島大学に危機対策本部を設置
- 東京電力福島第一原子力発電所事故3/12(放射線物質を大量に含んだプールの放出、3/15~16の放出が最大級)
- 3カ所の避難所(大学、附属小学校、附属中学校)を開設し、避難者の受け入れを開始(3/17)
- 放射線計測チームが活動を開始(3/18)
- 他大学からの支援物資到着(3/19以降、約30大学からの支援物資受け入れ)
- 学位記授与式を中止、学位記及び卒業証明書を送付(3/20)
- 放射線計測チームによる大学構内の空間放射線量計測開始(3/23)
- 附属学校での避難所を終了し、大学避難所へ避難者受け入れを移行(3/26)
- ホームページによる震災義援金の申込受付を開始(3/29~平成25年12/31まで)

4月

- 附属図書館に震災資料に関する特設コーナーを開設
- プロジェクト研究所「災害復興研究所」設置(設置期間:4/1~平成28年3/31)
- 放射線計測チームが、県内放射線レベルマップを作成(4/9)
- うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)設置(4/13)
- ラジオンテによる大気放射線観測を開始(4/15)
- 地震により落下した図書資料の復旧作業を教員や避難者の協力を得て実施
- 東日本大震災復興支援「希望プロジェクト」開始(4/25)
- 授業再開に向けた教職員向け講演会「放射線被ばくの健康影響」「大震災と大学・学生」実施(4/28)
- 「放射線対応マニュアル」「地震対応マニュアル」作成(4/28、学生への配布5/9)

5月

- 福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト、地域貢献のための相談窓口を設置
- 避難中の小中学生への支援ボランティア(未来のため)開始
- 学生団体「福島大学災害ボランティアセンター」設立(5/1)
- 学生の就職活動に関する交通費の支援開始(5/1)
- 入学式を簡素化して「新入生を迎える会」挙行(5/9)
- 附属中学校・幼稚園の表土入れ替え工事実施(5/22~6/7)

平成24年

6月

- 子どもの心のストレスアセスメントチームによる『子どものストレスのみきわめ・対処のポイント』を掲載したパンフレット作成
- 学生向け「地震と放射線対策に関する説明会」開催(6/8)
- 放射線の影響に関する学生の疑問等に対応するため「福島大学放射線相談窓口」開設(6/9)
- 災害復興研究所による「東日本大震災災害復興シンポジウム」開催(6/11)
- 東日本大震災に伴うボランティア活動による単位認定の決定

7月

- エセス製菓(株)との復興支援に関する協力協定を締結(7/6)
- 大学構内のU字形側溝及びホットスポットの除染工事実施(7/6~8/5)
- 「福島大学から世界へ元気を伝える笑顔のメッセージプロジェクト」を実施(7/13)
- 日本原子力研究開発機構と連携協定を締結(7/20)
- 広島大学・長崎大学と放射線に関する連携協定を締結(7/28)

9月

- 第1回双葉郡住民実態調査の実施(第2回は平成29年2月に実施)
- 平成24年度入試の検定料(受験料)免除決定を発表(9/7)

10月

- 福大生 Presents 「復興マルシェ」開催(10/22~23 平成25年まで毎年開催)

11月

- 金澤翔子氏の揮毫した書「共に生きる」の寄贈

12月

- 福島大学、宮城教育大学、山形大学の南東北三国立大学長による「大災害に際して地方国立大学がなすべきこと」と題した復興への決意表明(12/15)
- 「福島第一原発原子炉が冷温停止状態となる」(12/16)
- 立教大学との相互協力・連携協定締結と大学院地域政策科学研究科の東京サテライトの開設(12/21)

1月

- 双葉地方八町村との連携協力協定を締結(1/17)
- 学内で超高压水表面処理工法「Jリムーバー」による除染実証試験の公開(1/26)

2月

- 陸上競技場(芝生部)、バレーテニスコートの除染工事実施(2/10~4月)

2月

- サッカー・ラグビー場、ハンドボールコート、野球場、弓道場、馬場の表土入れ替え工事実施(2/10~4月)
- 放射線医学総合研究所(当時)との連携協定を締結(2/13)
- 産業技術総合研究所と連携・協力に関する協定及び教育研究協力に係る協定を締結(2/16)
- 中央広場芝部の表土除去工事実施(2/17~2/24)

3月

- 「共に生きる(東日本大震災後の記録) Vol.1」刊行(以降毎年刊行)
- FUREによる『子どもたちのためのストレス対処リフレット』の配布
- 中央広場(インターロッキング)の除染工事実施(3/5~3/30)

4月

- ふくしま震災復興フォーラム「みんなで築く福島の再生~ふくしまの絆づくり~」開催(3/17)
- OECED東北スクール始動(3/26~3/30以降継続実施)
- 国際交流センター設置

6月

- 共生システム理工学研究科(博士前期課程)に「再生可能エネルギー分野」を創設
- うつくしまふくしま未来支援センターユニット棟が完成し、FUREの活動が本格始動(4/1)
- 震災ボランティアによる避難中の小・中学生を対象とした東日本大震災教育支援プログラム「遊びと学び教室(未来のため)土曜子どもキャンパス」を実施(4/21、以降も定期的で開催)

7月

- いわき・双葉地域支援サテライトを川内村に設置
- Fukushima Ambassadors Program (F.A.P.) 短期プログラム開催(6/5~15、以降毎年開催)
- 経済経営学類と一般社団法人志友会とのコラボレーションによる無料公開講座「福島起業塾」を開催(6/29~3/15)

9月

- 福島大学の今を伝えるメッセージャープロジェクト実施(7月~9月、平成25年も同時期に実施)

10月

- 「ふくしま復興17カマルシェ」を開催(7/7)
- 人間発達文化学類と伊達市教育委員会との連携・協働に関する協定を締結(7/18)

11月

- 福島県内大学等復興支援センター連絡会開催(7/18、以降毎年開催)

12月

- 附属図書館に「震災関連資料コーナー」開設(7/23)
- FURE教員による「放射能汚染からの食と農の再生」を「刊行(7/27)

平成25年

4月	3月	2月	1月	12月	11月	10月	8月
<ul style="list-style-type: none"> ○福島大学・立教大学間の単位互換協定を締結(4/1) ○東北地区7国立大学法人による「大規模災害等発生時における東北地区国立大学法人間の連携・協力に関する協定」を締結(4/25) 	<ul style="list-style-type: none"> ○FUREに公式スコットキャクター「めばえちゃん」が誕生 ○FUREに公式スコットキャクター「めばえちゃん」が誕生 ○コロラド州立大学との協定を締結(3/6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○シンポジウム「ふくしま再生と歴史文化遺産」開催(2/3) ○OECD教育局次長(当時)アンドレアスシュライヤー氏、本学で教育復興について講演(2/4) ○「郷土に想いをよせる同窓会モデル化事業シンポジウム」故郷に想いをよせながら」開催(2/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省における大学、研究機関等との共同企画広報の実施「文部科学省ミニシアム情報ひろば」企画展示「今、ふくしまからはじめよう」福島大学における震災復興に向けた取組」開催(1/7/3/15) ○南東北三大学連携「災害復興都市講座(福島会場)」開催(1/10) ○文部科学省平成24年度学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業「新聞づくり体験事業」取材体験実施(福島市1/19、南相馬市2/9) ○郷土に想いをよせる同窓会事業特別編「うつくしまふくしま未来支援センター特別研究会「堀下さゆりトーク&コンサート」開催(1/30) 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内で避難生活を送る小中学生と保護者を対象に「タリスマンハート」を開催(12/15) ○IRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所)との協定を締結(12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふくしまの想いを届けよう」福島大学教育支援&復興マルシェin文部科学省」開催(11/8) ○放射線(能)測定スキルアップ「復興の担い手育成事業」放射線測定従事者研修会を開催(11/29・30、以降第9回まで開催) ○「ふくしま食と農の再生シンポジウム」開催(11/30) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「郷土に想いをよせる『同窓会』モデル化事業の実施(以降平成26年まで随時開催、浪江町、川内町、飯館村、山形県、大阪府、大熊町、葛尾村) ○総合科目「災害復興支援学」を新規開講(10/1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学会館前屋外ステージ等表層土除去工実施(8/7/9/28)

12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月
<ul style="list-style-type: none"> ○「うつくしまふくしま未来支援センター棟」竣工 ○地域イノベーション戦略支援プログラム「再生可能エネルギー人材育成事業」開始(5月/平成29年3月) ○ふくしま未来食・農教育プログラム開始(5/9/7/11、以降平成28年まで毎年開催) ○東京海洋大学との連携事業による福島沖海洋生態系の放射能汚染調査を実施(5/14/23) ○福島復興を担う若者向け人材育成プロジェクト「ふくしま復興塾」開講(5/18) ○科学研究費助成事業基盤研究(S)に「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」が採択(研究期間5/31/平成30年3/31) ○ふくしま再生シンポジウム「震災復興」大学に期待すること」開催(6/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境放射能研究所(IER)設置(7/1) ○筑波大学、東京海洋大学、福島県立医科大学との連携協定を締結(7/1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○OECD東北スクール成果報告会(東京)に、皇太子ご夫妻(当時)ご出席、生徒と懇談(8/6) ○SCK・CEN(ベルギー原子力研究センター)との協定を締結(8/29) ○若者キャリアキャンパスカフェ開催(8/31以降定期的に開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ○南東北三国立大学連携成果「災害復興学入門」巨大災害と向き合う、あなたへ」刊行(9/1) ○福島大学、(株)パーキンエルマージャパン、(独)日本原子力研究開発機構、(独)海洋研究開発機構の合同チームが「放射性物質ストロンチウム90の迅速分析法」開発(9/18) ○FURE棟竣工記念「二都市シンポジウム」企業・経済界は被災地の復興に何ができるのか(東京)開催(9/24) ○福島復興フォーラム「生活再建に向けて」開催(毎日新聞社、福島民報社、FURE、国際公共政策研究センター)合同開催(10/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ○NATIONAL FOOD CHAIN SAFETY OFFICE(ナガリー国家フードチェーン安全監督局)との協定を締結(11/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども・若者向けサポート事業開始 情報ステーション「ほっとルーム」設置(12/12) 		

平成26年

12月	10月	8月	7月	5月	4月	3月	1月
<ul style="list-style-type: none"> ○金谷川キャンパス等除染工実施(12/16/平成27年5/29) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「CO2事業」高校生のための6次産業化、学習講座開催(8/4・7・8) ○OECD東北スクール「東北復興祭(環WA) in PARIS」開催(8/30/31) ○「CO2事業」高校生のための6次産業化、学習講座開催(8/4・7・8) ○OECD東北スクール「東北復興祭(環WA) in PARIS」開催(8/30/31) ○「再エネ技術 in いわき」再生可能エネルギー事業フロンティア育成講座開催(7/1/23、会津10/27/11/5) ○環境放射能研究所分析棟竣工(7/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「再生可能エネルギー」再生可能エネルギー事業フロンティア育成講座開催(7/1/23、会津10/27/11/5) ○環境放射能研究所分析棟竣工(7/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○福大生 presents ふくしま食と農の情報発信プロジェクト「おかわり農園」学生が創る福島のコメみらい」始動 ○OECDフォーラム(パリ)にOECD東北スクール生徒参加、実践を報告 	<ul style="list-style-type: none"> ○「再エネ技術 in いわき」再生可能エネルギー事業フロンティア育成講座開催(7/1/23、会津10/27/11/5) ○環境放射能研究所分析棟竣工(7/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト研究所「災害心理研究所」設置(設置期間4/1/平成31年3/31) ○環境放射能研究所が新体制(5部門16分野)で本格始動 ○「CO2事業」地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」開講 ○県内の子どもへの心ケアを行う「子どものメンタルヘルス支援事業」開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○FURE編「福島大学の支援知をもとにしたテキスト」災害復興支援学」刊行 ○ライターを用いた粉塵観測開始(3/3) ○福島大学生協同組合と災害時の相互協力に関する協定を締結(3/5) ○FURE棟竣工記念二都市シンポジウム「福島は今」、そして「未来へつなぐ」(大阪)開催(3/8) ○シンポジウム「福島復興の課題と研究者の役割」開催(3/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土に想いを寄せる同窓会事業「新聞づくり事業」開催(以降平成28年まで随時開催、川内村、いわき市、楡葉町、浪江町、富岡町)

平成27年

Table with 12 columns (10月 to 1月) and multiple rows of activity entries for Heisei 27, including 'シンポジウム「ふくしま未来学」', '環境放射能研究所', and '論文公開「チェルノブイリ」'.

平成28年

Table with 12 columns (10月 to 10月) and multiple rows of activity entries for Heisei 28, including 'シンポジウム「ふくしまの食品・農業・環境の未来を創る」', '論文公開「福島県産海産物の放射性セシウム濃度の低下と沿岸漁業の復興」', and '環境放射能研究所」'.

平成29年

Table with 12 columns (10月 to 12月) and multiple rows of activity entries for Heisei 29, including 'シンポジウム「チェルノブイリと福島を繋ぐ研究協力プロジェクト開始に伴うワークショップ開催」', '論文公開「福島大学フォーラム2017」', and '環境放射能研究所」'.

平成30年

Table with 12 columns (months) and 12 rows of events for Heisei 30. Includes items like '熊本大学大学院生の被災地視察受け入れ', '環境放射能研究所が弘前大学被ばく医療総合研究所と協定を締結', '農学群食農学類の設置認可'.

令和元年

平成31年

Table with 12 columns (months) and 12 rows of events for Reiwa 1 and Heisei 31. Includes items like '環境科学技術研究所と協定を締結', '農学群食農学類、大学院共生システム理工学研究科(環境放射能学専攻)の設置認可', '福島大学震災・復興展示コーナー'.

令和3年

令和2年

Table with 12 columns (months) and 12 rows of events for Reiwa 2 and Reiwa 3. Includes items like '論文公開「川から海へ、セシウムはどれだけ流出したか」', '農学群食農学類高貝慶隆教授による「原子力災害に貢献する放射性ストロンチウム迅速分析法の開発」', '論文公開「福島県内で見られる被ばく線量に応じて発生するアカマツの形態異常の発生メカニズムに迫る研究成果」'.